

第 四 門
K
二

明治三十九年九月

日露汽船會社提議
関スル件

第 三 五 号

外務省

3-2058

0391

外務省

明治三十九年九月二十八日

受第一七二〇〇號

外務大臣閣下曩ニ及具陳候日露兩國提携
 航路擴張ノ儀ニ關シ不肖去月二十五日大
 家商船會社代表者ト共ニ敦賀ヲ出發シニ
 十七日浦港ニ到着二十八日ハ露國祭日ニ
 當ルヲ以テ東亞汽船會社トノ交渉ヲ見合
 セ先ヅ港務局長海軍大佐エゲルマン氏
 ヲ往訪シテ不肖今回ノ未意ヲ告ゲ其ノ深
 厚ナル同情ト露國ガ極東ニ於ケル交通及
 貿易ノ擴張ニ對スル經營事項ニ就テ聞知
 シ得タル次第ハ同二十九日附ヲ以テ閣下
 ニ報告シタル所ニ候

二十九日港務局長エゲルマン氏ニ伴ハレ
 テ東亞汽船會社ニ海軍少將デリウロシ氏
 ヲ訪フ氏ハ東亞汽船會社副社長トシテ極
 東航路業務ノ專務主任ニ有之氏ハ直チニ
 自室ニ延キ我居留民會名譽會長杉浦龍吉
 ノ通譯ニ依リ先ツ本案ノ大目的ニ就テ不
 肖ノ提議ニ對シ其同意ヲ得亦彼我ノ企望
 ヲ交換シタル次第ハ別紙覺書第一號ノ通
 リニ候而シテ此間東清鐵道副理事(理事交
 迭後任者未着)アンドレエフ氏モ未會シ
 テ我重要輸出品ノ鐵道輸送ニ関シ商議ス
 ル所アリ又エゲルマン氏ノ終始助言ニ勉

空石井製

3-2058

0392

夕タルコトハ特ニ閣下ノ御記臆ヲ請フ所
 ニ候
 三十日東亞汽船會社副社長デリウロシ氏
 ハ前日ノ答禮トシテ不肖ノ客舎杉浦商館
 ニ未訪シタルニ依リ不肖ハ杉浦ト共ニ之
 ヲ延テ意見ヲ交換シタルハ別書覺書第二
 號ノ通ニ候
 右覺書ノ初項ニ依リ大体ノ目的ト又此目
 的ヲ達スルニ就テ施設ヲ要スベキ意見數
 條ヲ記述シ更ニ逋信省當局ノ内示(八月二
 十九日附及御報告候)ニ係ル事項ニ照シ大
 家商船會社ニ電報商量ノ上覺書ヲ起草シ
 九月二日之ヲ携帶シテテ、リウロシ氏ヲ往
 訪シタル次第ハ覺書第三號ノ通ニ候而シ
 テ其覺書提出ニ就テノ趣旨ハ第四號說明
 ニ就テ特ニ御諒察ヲ請フ所ニ候
 翌三日東清鐵道會社ニ全社新理事ケ、ウ
 井ツ彦氏ニ會見シテ水陸聯接上ニ関シ商
 議セル大要ハ別紙第五號覺書ノ通ニ候
 之ヲ要スルニ彼レカ兩國通商ノ發展ニ對
 スル意見ヲ敷衍スルトキハ大要左ノ通ニ
 有之候
 (イ) 日本ノ腹部(大阪以東静岡以南殊ニ名古屋
 屋及知多半島勢北四日市等ヲ指シテ云

※石井製

乙ハ大豆及大豆粕ノ必要地ニシテ且ツ
 集散地ナリ又敦賀ハ此腹部ノ閉門トシ
 テ須要ノ地点トス故ニ此閉門ニ由リテ
 日本ノ必要品ヲ其必需地ニ輸入スルハ
 北海又ハ長崎ヲ經由スルモノヨリ價格
 低廉運輸利便ニシテ双互ノ貿易ヲ發展
 スルニ於テ大ニ望ヲ繫クニ足ルモノア
 リト云ヘルモノ其一ナリ

(丙)紅茶磚茶ハ露國ノ必需品ナリ而モ日本
 ハ製茶ニ富ムニ拘ラズ從來販路ノ擴張
 シ能ハザリシモノ一ハ品質ノ不良ナル
 事由ルヘケレト又價格ノ高貴ナル清英

(錫蘭)兩國製茶ト競争シ得ザルカ為ナリ
 何トナレバ品質ヲ云為スルハ上流者ニ
 シテ中流及下流者ノ多數ハ價格サハ低
 廉ナレバ多少ノ品質不良ノ如キ問フ所
 ニアラズ今日本内地ヲ視ルニ茶ノ原料
 ニ富ムコト實ニ豫想外ナリトス而モ製
 産費ノ多キヲ要セザル茶ノ原料ニ富ム
 コト如此ニシテ尚露國市場ニ清國及錫
 蘭茶ト競争シ得ザルモノ畢竟運賃ノ負
 擔重キガ為ニ價格ヲ騰貴セザルヲ得ザ
 ルニ由ル今マ日露航路提携ノ結果運賃
 ニ低減ヲ見ルニ至ラバ其販路ノ擴張ハ

本邦製

期シテ待ツベキナリ而シテ東清、東亞兩社ハ其運賃ノ低減ニ向テ貴國製茶ガハルピン、イルラスク市場ニ清英兩國製ニ勝テ得ルマデヲ程度トシテ低下スベシト云ヘルモノ其ニナリ

(1) 小麦及麦粉ハ日本ノ必要品ニシテ露國亦之ヲ供給スルニ餘カアリ故ニ日本市場ニ於テ米國品ト競争シ得ルマデ運賃ノ低下ヲ計ルヲ以テ日本モ亦同ジク其輸送上ニ便利ヲ與ヘテレタシト云ヘルモノ其ニナリ

(2) 生糸、絹織物ノ如キ貴重品ハ海運ニ由ルヨリモ陸運ニ由ルヲ便トス其危險ノ保安輸送ノ速達ニ於テ殊ニ然リトス日本カ歐洲各市場ニ向テノ輸送ニ對シ十分ノ責任ヲ以テ簡易ト低廉ノ取扱ヲ為スベシト云ヘルモノ其ニナリ

右ハ只國際貿易ノ發展ニ對シ彼レカ著目又ハ經營セントスル意見ノ大要ニ過キザルモ彼レノ必要品タル製茶及生絲ヲ始メ我が各種特有物産ノ新販路ヲ開クニ於テ頗ル望ヲ屬スベキモノアルト共ニ彼レノ輸出重要品タル大豆及大豆粕ヲ廉價ニ輸入スルニ於テハ膏ニ該品ノ必需地タリ又

※石井製

集散地タル地方ヲ開發スルニ利アルノミ
ナラス亦一般農事ノ改良ニ向テ資益スル
所尠カラザルベシト確信仕候殊ニ麦粉ノ
需用逐年増加スルノ今日廉價ナル麦粉及
小麦ノ輸入ヲ見ルコト我が經濟上決シテ
輕視スベカラザル儀ト存候

以上ノ所見ト之レカ輸出入ニ對スル交通
機關ノ設備トニ就テハ夫々農商務通信兩
大臣ニ及御報告置候得共尚切ニ閣下ノ御
留意ヲ仰ク所ニ候

詳細ノ卑見ハ別ニ具陳ノ榮ヲ得ベキ機會
ニ付シ茲ニ本議ニ関スル覺書ノ大要ヲ記
述シテ謹テ電覽ニ供シ併テ仰御指導候也

明治三十九年九月

下村房次郎

外務大臣子爵林董殿

空存製

敦浦間航路提携協商會見覺書

第一會見覺書

明治三十九年八月廿九日午前十一時港務局長エゲルマン氏同行下村房次郎杉浦龍吉東亞汽船會社ニ至ル同社則社長海軍少將デリウロニ氏直チニ延見談話ノ概要左ノ如シ以下甲ト称スルハ下村房次郎乙ハ東亞汽船會社當事者ナリ

甲(杉浦氏)曰ク予ハ今日下村氏ノ通譯タルノ資格ヲ以テ茲ニ參會シタリ下村ハ多年日露貿易ノ發達ニ就テ熱心盡カレツツアルコトハ世ノ已ニ知ル所ナレバ茲ニ別ニ云フ所ナカルベシ平和克復後西比利亞鐵道急行列車ノ實施セララル、ニ於テハ之ヲ敦賀ニ接續スルノ急ナルヲ知ルト同時ニ現今ノ如ク迂回航路ヲ避ケテ之レニ接應セシムルノ方法ヲ畫セシトスルニ當リ貴社カ夙クモ同鐵道一週ニ回ノ急行列車ノ實行ト同時ニ一艘ノ汽船ヲ浦敦間ニ置キ直通ノ便ヲ開カレタルハ下村ノ深ク敬服スル所ニシテ折角之レヲ繼續セシムルニ利便ヲ與フルヲ以テ自己ノ義務ナリト思惟セリ然レドモ一週ニ回ノ鉄道急行ニ接續スル

※右并製

ニ一ニ貴國ノ船舶ニノ此レ依ルコト
 トスルハ世界交通ノ利便ニ對スル日本
 ノ責務ヲ全フスルニアラザレバ宜シク
 双方一艘ノ船舶ヲ以テシ相提携シテ此
 浦敦間ノ交通ヲ全フスルハ其宜シキヲ
 得タルモノナルベシト思考シ之レヲ我
 カ政府及我が當事者タル大家商船會社
 ニ圖リタルニ何レモ同意ヲ表セラレシ
 ヲ以テ東京駐紮貴國々使及總領事ニモ
 會見シテ此意見ヲ披陳セシニ共ニ大ニ
 同情ヲ寄セラル、所トナリ和協成立ニ
 付テ充分ノ助力ヲ與ヘラルベキ旨明言
 セラレタリ乃チ下村ハ茲ニ渡航シテ閣
 下ト相見ユルコトナリ而シテ大体御同
 意ヲ得ルトスルニ於テハ又實際施行細
 目ニ涉リテ商量スルノ必要アルベシト
 思惟シ大家商船會社當事者ト商議シ同
 社ニ於テ最モ此等ノ才識ヲ有スル一人
 ヲ同伴セリ云々
 乙曰ク大体ノ御意見ハ大ニ賛成スル所ニ
 シテ亦最モ希望スル所ナリ依テ御趣旨
 ノ要項ハ電報ヲ以テ本社ニ通ジ其義認
 ヲ求ムベシ
 浦敦間ノ直航線ヲ開キ鐵道ト聯絡ヲ通

空行製

スルハ誠ニ是レ世界通路ノ最短距離ノ
 幹線ヲ開クモノナリ現ニ今斯ル(甲)号参
 着廣告即チ四十日間世界一週ノ廣告ヲ
 作り之レヲ一般ニ廣告センモノト起草
 レタル際會ナリ然レドモ單ニ一艘ノ使
 用船ニ止マルヲ以テ二回ノ急行列車ニ
 接續スルコト能ハス從テ中間ノ滯留ニ
 其功ヲ空フスル所アルコト、ナルヲ以
 テ兩國各一艘ヲ以テ一週ニ回ノ往復ヲ
 ナシ之レガ接續ヲ全フスルハ甚カ満足
 スル所ナリ
 係レ翻テ營利的事業トシテ見レハ日本
 ヨリモ露國ヨリモ充分物資ノ交換ヲ計
 リ日露双互ノ貿易ヲ發展セシムルハ最
 モ緊要ナルコトニシテ日本ヨリ輸入レ
 来ルモノハ暫ク措テ當方ヨリ貴國ニ向
 ケ輸出スル見込アルモノハ大豆ト麦粉
 ノ二種ナリトス然ルニ麦粉ハ米國ヨリ
 輸入シテ貴國ノ需用ヲ充サレツ、アル
 コトナルカ日本市場ニ於テ米國品ト競
 争スルニ於テハ大ニ奮發スル所ナカル
 可ラス即チバルピンノ原價ニ汽車及汽
 船ノ運賃ヲ加ヘテ米國品ノ日本市場ニ
 於ケル價ヨリモ廉ナラシメザル可ラザ

五石并製

四ノ上
 提テ可
 作ル

3-2058

0399

ル必要アリ故ニ目下東清鐵道ト運賃引
 下ニ関シ交渉中ナリ右引下グベキ運賃
 率ハ汽船運賃ノ改正ト全時ニ(目下運賃
 ハ假リニ実施シ居ルモノニシテ更ニ低
 廉トナス考ナリ)実行スベキ考ナルガ目
 下東清鐵道ト西比利亞鐵道ト合併セラ
 レ其引継ノ事務ニ忙殺サレ居ル際會ニ
 付キ其運賃ノ交渉モ一時ニ運ヒ兼ヌレ
 ドモ一日モ忽ニス可ラザル問題ナレバ
 精々早く取纏ムベシ
 儲又斯ク世界的大路トシテ航路ヲ開ク
 ニ於テハ冬期氷結ヲ以テ航路ヲ中止ス
 ベキニアラズ又前陳貨物運賃ニ對シテ
 モ低廉ヲ趣旨トスル上ハ其定期航路ヲ
 中止スル如キハ世界的事業トシテ見ル
 モ營利的事業トシテ見ルモ其宜シキヲ
 得タルモノニアラズ故ニ碎氷船ノ増加
 ヲ機トシ冬期モ全然航路ヲ中止セザル
 考ナリ
 乍倂敦賀港タル貨物ノ揚卸ニ就テ一ノ
 設備アルコトナシ殊ニ冬期間ニ於テハ
 北風常ニ劇シク荷役ニ非常ノ時日ヲ費
 シ到底定期ノ航路ヲ実行スルニ難カル
 ベシ故ニ目下第一ノ急務ハ港灣ノ設備

森石井製

ト波切(大ナル風波モナケレハ)ノ建造ニ
アリ此件ニ就テハ我公使及総領事へモ
日本政府ニ向テ充分ノ交渉方ヲ依托シ
タレハ貴下モ御同感ナレハ御盡力アラ
ニコトヲ乞フ

甲曰ク港灣ノ設備ハ固ヨリ國ノ責務トス
ル所我カ政府ニ於テモ必ズ成算アルベ
キヲ信スレドモ不肖又充分政府ニ向テ
其実行ヲ促カスベシ

乙曰ク露獨間バルチック海ノ定期航路ニ
付テ露西亞ハウラジミル号獨乙ハアレ
一此号各一艘ヲ以テ恰モ貴下ノ御意見

通^リ共同經營レタルコトアリ頗ル成功ヲ
得タリ故ニ多少ノ困難アリトスルモ彼
我意思疏通ノ上共ニ力ヲ盡スニ於テハ
浦敦間ノ新提携モ亦必ズ成功スルモノ
タルヲ疑ハズ

運賃々率ハ前言ノ通^レ鉄道トノ連絡上水
陸共通引換證發行ノ希望ヲ有スルカ故
ニ西^米利亞^北鉄道ノ規程成立ヲ待テ始メ
テ之レヲ定ムルコトヲ得バク貴方モ亦
同じキ方法ヲ取り水陸共通ノ引換證ヲ
發行シ成ルベク低廉ナル運賃ヲ以テ荷
客ヲ輸送スルノ方法ヲ設ケラレタシ

西米利亞製

甲曰ク當方モ亦已ニ米原兼換ヲ改正スル
 コト等ニ付テハ當局ニ稟議スル所アリ
 只今ノ御話ノ如キモ無論之レヲ実行ス
 ルコト、ナルベキヲ信ス尚ホ貴方ニ於
 テ施設セラル、コトハ可成當方ニ於テ
 モ之レヲ実行スルニ勉ムベク從テ當方
 ニ於テ施設スル所亦貴方ノ同ジク施設
 セラレンコトヲ望ム其程度方法ハ別ニ
 商議スル所アランコトヲ望ム
 此レニテ大体ノ議ヲ了シ次ニ日本現行ノ
 鑛道運賃率日本ヨリ浦港ニ輸入スル重要
 貨物現行運賃ノ提示ヲ求メテレ時正ニ正
 午ヲ過クルコト三十分ナルヲ以テ此日ハ
 一旦散會ス

附記

港務局長エゲルマン氏ハ時々中間ニ
 立テ助言スル所アリ又東清鑛道會社
 副理事(理事更迭ノ為メ同氏参席)アン
 ドレーエフ氏談話ノ央ニ未會シ終始
 本議ニ參與セリ就中エゲルマン氏ガ
 日本生絲ノ鑛道輸送ニ付テ發議スル
 所アリアントレーエフ氏又熱心之レ
 ニ同意シ斯ル貴重品ハ海運ニ據ルベ
 キモノニアラザレバ其運賃等ハ勉メ

本頁複製

第二回會見覺書

八月三十日午前十一時デリウロシ氏ハ昨日ノ注訪ニ對スル答禮トシテ杉浦商店ニ來訪ノ席上

乙曰ク兩國提携航路擴張ノ議ハ頗ル同感ニシテ且ツ希望スル所ナルハ昨日御答申シタルカ如シ從テ之レカ実行ノ迅速ナルト又確實ナランコトヲ欲スルヲ以テ貴下提議ノ要領ト又之カ実行ニ就テノ詳細ノ事項即チ貴下ノ欲スル所ノモ之レヲ筆記ノ上提出セラレンコトヲ望ム

右ニ對シ其同意ヲ表スベキモノハ申述モナケレドモ亦實際御再考ヲ要スルモノアルトキハ更ニ商議ヲ盡シ結局双互相悖ラズ行ハレ得ベキ程度ヲ具體的ニ記述シ之レヲ本社ニ稟議シ尙政府ノ兼認ヲモ受ケテ御回答スルコト、ナシ貴下モ亦貴國政府ノ兼認ヲ得ザル可ラザルコトナレハ本回答ニ對スル貴下ノ御回答(手續ヲ經テ兼認ヲ得タル)ヲ得テ將來ニ故障ノ生ゼザルコトニ取極メ置キタシ

甲曰ク御意見至極御同意ナリ昨日御請求

※石井製

ノ調査書類モ整ハタレバ貴意ニ對スル
當方意見ノ詳細ヲ覺書トシテ携帶ノ上
當方ヨリ御訪問致スベシ云々

石井製

3-2058

0405

第三回會見覺書

九月二日午前九時四十分下村房次郎、杉浦龍吉ハテ、リウロシ氏ヲ其自邸ニ訪ヒ本議提出ノ目的、意見、注意ノ箇條ト調査統計ニ係ル諸表ヲ提出ス、テ、リウロシ氏一々通讀多少ノ質問又ハ意見アリシカド渾テ満足ノ念ヲ以テ容レ殊ニ意見第六項ニ至リ深ク敬畏ノ念ヲ以テ信賴ノ意ヲ表サレタルハ西人モ亦満足トスル所ナリ右提出書類通讀ヲ待テ

甲曰ク本提議ノ目的ニ於テ異議ナケレハ之レニ關聯スル必要事項ヲ筆記シテ交換セシ

乙曰ク誠ニ然リ只今御提出ノ筆記ヲ以テ貴下提出ノ覺書トシテ當方ニ保管シ之レニ對スル同意及當方ノ意見又ハ企望ハ之ヲ筆記レ當方ノ覺書トシテ提出スヘシ右御滞留中ニ辨スルヲ得サル節ハ郵便ヲ以テ送致スベシ固ヨリ異議アルニアラザルハ御兼知置アリタシ

甲曰ク貸率其他細則ハ乙カ東清鐵道トノ貸銀問題協商ノ上提出セラレタシ甲ハ之レニ據リテ意見ヲ提出シ双互ノ希望ヲ調和シテ成立スルコト、致シタシ尤

※右并製

モ右ハ滞在在中ニ為レ得ザレバダグレスエ
総領事ヲ經由シテ照會アリタシ文書ヲ
以テ協商シ得ザルモノアルトキハ何レ
カ代表者ヲ派遣シ協商ヲ遂クルコト、
シタシ

乙曰ク貴下ヨリ受取リタル覺書并ニ之レ
ニ對スル自分ノ意見書等ハ公使及総領
事ノ手ヲ經由スルトキハ自然遲滞ヲ生
ズベシ又不成立前ニ干涉ヲ受クルモ好
マシカラザレバ本社ニ直チニ提出シ而
シテ其写ヲ貴下ニ回送スルコト、ナス
ベシ

甲曰ク双互共ニ政府ヨリ特權ヲ受クルモ
ノハ之レヲ甲乙共ニ均分ニ享有スルコ
トニ双方ノ政府ニ請求スルコト、シタ
シ
乙曰ク無論ノコトナリ何レ多少ノ特權ヲ
得ザル可ラズ

甲曰ク水陸聯絡共通引換證ノ形式其他新
ニ施設セントスルモノハ渾テ其詳細ヲ
豫示セラレタシ

乙曰ク兼知セリ尚例セハハルピンヨリ敦
賀ヲ經神戸横濱ヲ始メ到ル所一枚ノ證
券ヲ以テ應用センコトヲ望ムナリ

※石井製

甲曰ク當方モ成ルベク其便法ヲ実施スル
 コトニ盡カスベシ
 甲又曰ク斯クノ如クナル上ハ日本ニ於ケ
 ル取扱人ハ資産信用及能力ヲ有スル適
 當ノモノヲ撰擇スル必要アリ是レ本目
 的ヲ実行スルニ於テ最モ肝要ナルコト
 ナリトス貴意果シテ如何
 乙曰ク誠ニ然リ其邊一ニ貴意ヲ煩ハス但
 シ諸般ノ協議成立スル上ニ於テ決行シ
 タニ成立ノ上ハ貨物乗客共ニ日露汽船
 ノ何レタルヲ問ハズ時機ニ應ジ適宜ニ
 搭載シ總收入金ヲ切半スルノ法ヲ取テ
 シムルモ可ナラシ免ニ角斯程ノ大ナル
 責任ヲ負担スルモノタルヲ以テ其財力
 能力殊ニ信用ニ於テ充分ノ人物ヲ要セ
 ガルヲ得ズ就テハ今ヨリ貴意ヲ煩ハサ
 シコトヲ乞フ
 東清鐵道新任理事着任シタレハ一應會
 見セラレシコトヲ望ム明日弊社ニ御來
 駕下サルニ於テハ拙者紹介ノ勞ヲ執ル
 ベシ
 尚此外御熟議ヲ要スル事項ヲ思ヒ出サ
 ハ明日御會合ヲ以テ御打合せスルコト
 ト為スベシ

石井製

時已二十一時ヲ過クルヲ以テ辞シテ帰ル
附記

運賃率ニ関シ鉄道ト大体ノ運賃ヲ定
ムルモ外船ノ神戸其他ノ港ヨリ来ル
モノト競争アルトキハ自ラ賃率ヲ引
下ケザル可ラズ又炭價ノ騰貴ト共ニ
引上ケラ要スルコトアリ此場合賃率
ノ変更ニ付キ鉄道トノ関係如何ニス
ベキヤ充分意見ヲ得ス更ニ御相談ノ
期ニ讓ルベシ云々ノ談ヲ挾メリ

石井製



本按提出ノ趣意説明

乙ノ意向ハ秋季小麦ノ收獲時機ニ投ジ低廉ナル運賃ニ依リテ收蒐輸送ヲ期スルカ如ク又櫻携ノ場合ニハ成ルベク其実行ノ速ナラムコトヲ望ムモノ、如シ

今彼ノ意向ニ投ジ内示第一條ヲ提出シ之ニ據リテ商議ヲ開カンコト容易ナルモ然ル場合ニハ豫^備困難ニ遭遇スルノ覺悟ナカル可ラズ

一実行急施ノ請求ニ對シ大家商船會社ハ直チニ之ニ應ズル船繰ノ準備アリ

一乙カ各期、航海不休トマテノ覺悟ニ對シ明治四十年四月ヨリトノ時期ヲ打チ出シ得サル事情アリ

且ツ又乙ハ東清鐵道トノ運賃低減方確定ノ上現行假賃率ヲ改正スベシト明言セリ故ニ此ノ改正賃率ノ提供ヲ待テ之レヲ標準トシテ我重要輸出品中前途有望ナル物品ノ運賃低減ヲ請求スルコトノ穩當ニシテ且ツ行ハレ易カルベク且又賃率其他ノ協商ハ前述(東清鐵道トノ打合未定中)ノ事情アリテ直チニ商議ヲ開クコトヲモ得ザルマシ仍テ此等ハ横濱駐紮露國總領事ヲ

※石井製

介シテ相互ノ意見ヲ交換スルヲ便ナリト
ス如此ニシテ時日ヲ經過スルノ間ニ於テ
大家商船會社モ適宜船繰ノ準備ヲ為スラ
得ベク而シテ其遲速緩急我ノ便宜如何ニ
依リテ決定スルヲ得ベキナリ

如此考慮シ且ツ又之レニ出ルノ外ニ良按
ナカルベシト認メタルヲ以テ先ツ本提議
ノ目的ト乙ニ對スル善意的意見共ニ異日
債率等細目ノ商議ニ當リテ生出スベキ疑
問ヲ解決スルニ資スベキ本提議ノ根本的
意義ニ関シテ其希望及注意ヲ提出セリ

石井製

目的

第一、聖都浦港間一週二回ノ急行列車ニ接
續シテ東京ニ聯絡スル交通ヲ全フセン
カ為メ日露各一艘ノ汽船ヲ以テ敦賀浦
港間ノ航通ニ充ツルコト

第二、第一條ヲ行フノ目的ハ一ニ世界的交
通ノ利便ト兩國貿易ノ發展トヲ計ルニ
在ルヲ以テ相互ノ競争ヲ避ケ相提携シ
テ確實ニ執行スルコト

第三、第二條ノ趣旨ヲ達スルカ為其賃率水
陸接續并ニ乗客貨物ノ取扱方法等諸般
ノ關係事項ヲ通シテ之レカ協同施行ノ

手續ヲ一定スルコト

石井製

意見及注意

一、本議ヲ実行スルニ於テ第一不便ヲ感スルハ敦賀港設備ノ缺點ニ在リ是レ予ニ於テモ自ラ十分ニ認ムル所ナルヲ以テ防波、棧橋等ノ設備、缺道ノ接續等ニ就テハ我政府ニ於テ成算アルベキヲ信スレドモ尚ホ其設備ノ急施ニ就キ之ヲ請求スルニ勉ムベシ

二、又同港ノ小設備即チホテルノ開設、市街ノ整理、商品陳列館ノ設置等地方官廳及地方有志者ノ共ニ協力計畫スル所アルヲ以テ近キ将来ニ於テ現今ノ如キ不便ナカテレムルコトヲ予ハ明言ス

三、東京米原間急行時間ハ十時十三分米原敦賀間普通時間一時四十二分ヲ要ス即チ合計十一時五十五分ナリ(此他現今ニテハ東海北陸兩線接續ニ一時三十分ヲ要ス)我缺道當局ニ於テ米原衆換ヲ廢シ東京敦賀間ノ急行又ハ直行列車ヲ実行スルニ於テハ早キハ十一時間強遅キモ十五時間ヲ過クルコトナカルベシト信ス

四、将来敦賀ニ蒐集スル物資ノ増加スベキハ必然ニ付同港ニ於ケル荷役上貴船ノ

石井製

碇泊時間ハ可成延長セラレシコト豫メ
考慮ヲ望ム

五、日本ヨリ出ス所ノ一艘ノ浦港碇泊時間
ノ如キ追テ商議ニ及ブキモ其荷役等
モ敏捷ヲ要スルハ定時航海船ニ必要ナ
ルハ云フマデモナシ此邊ハ十分ノ利便
ヲ與ヘラレシコトヲ豫メ請求ス

大尚又本目的タル最モ崇高ナリトスルモ
之レヲ行フモノ是レ營利會社ノ事業ニ
屬スルヲ以テ其利益ヲ多ク犠牲ニ付セ
シムルハ又其目的ヲ破壊スルニ齊シ此
間ノ消息予自ラ營利業者ニアラザルモ
能ク之ヲ了解セリ故ニ此大目的ノ首尾
能ク行ハレシカ為メ貴社及我大家商船
會社ノ為ニ貨物ノ集蒐運輸ノ利便等ヲ
計ルニ於テ終始微カラ盡スヲ怠ラサル
ベシ

※石井製

一、滿州産小麦、麦粉、大豆、大豆粕ヲ浦港ヨリ
 我邦ニ輸出シテ有望ナルハ貴説ノ如シ
 尚予ノ考フル所ヲ以テスレバシベリヤ
 産^件如キモ亦多大ノ販路ヲ開キ得ベキ
 モノナルヲ信ス故ニ其販路ノ擴張等ニ
 就テハ微力ヲ盡スヲ急ラザルベシ
 二、次ニ我邦ノ産物中生糸及絹織物ノ如キ
 歐洲各國ニ輸出スルモノ別表ノ如ク巨
 額ニ上ル之レヲ海運ヨリ陸運ニ移スコ
 ト貴重品ノ性質ヨリ見ルモ亦貴國鐵道
 ノ經營ヲ見ルモ必要ノ事ニ属ス又別表
 ノ如キ商品ハ貴國ニ輸入スルヲ重要品
 ナリトス故ニ此等貨物ニ就テハ共ニ運
 賃^低廉ト取扱ノ利便トヲ計リ其發達ニ
 勉ムルヲ要ス
 從來本邦生糸ノ貴國ニ直輸出スルモノ
 ノ殆ント之レアルナレ一千八百九十
 七八年ノ比横濱駐劄貴國經濟通信官
 アレキセーフ氏ト共ニ茲ニ見ル所ア
 リ其直輸出ヲ計ラシメシニハ露國ハ
 低廉ニ購入レ得テ日本亦利益ヲ仲間
 ニ失フヲ免ル、ヲ得ベシト主張シ竟
 ニ機敏ナル當業者ノ著手スル所トナ

明治廿年報

リニケ年ニシテ殆ント百万圓ニ近キ
取引ヲ見ルニ至レリ(三十六年度取引
高別表ノ如シ)之レニ反シテ從來獨乙
ニ輸出シタルモノ漸次減少スルニ至
リシハ明ニ仲間者ニ利益ヲ占得セラ
ル、ヲ防キ支レ丈ケ需給兩者ニ利益
ヲ得セシムルモノナルヲ證スベシ今
此ノ運賃ノミニ就テ見ルモ海運ヨリ
之ヲ陸運ニ移スノ方法ヲ取ルニ於テ
ハ其保険料及ヒ適送ノ迅速安全等ニ
就テ多クノ利便ヲ舉クルヤ疑フ可ラ
ス

尚日本ヨリ輸入重要物品及現行貸率表
等ハ本議露文譯ノ分ハ通信大臣ハ授出
其原文ハ杉浦龍吉ニ保管セシム

※石井製

才五号

第四回會見覺書

九月三日午後三時下村房次郎河野文一(大
 家商船合資會社負)杉浦競吉相伴ヲテ東亞
 汽船會社ニ至ルデリウロシ氏直チニ延ヒ
 テ東清鐵道新任ノ理事スタルインケール
 井ツチ工氏ニ紹介シ前日提出ノ覺書等ヲ
 提示セリ下村氏ハ又總領事ガレス工氏ヨ
 リノ紹介状ヲスタルインケール井ツチ氏
 ニ交附シタルニ之レヲ一讀シスタルイン
 ケール井ツチ氏曰ク此書面ニ依ルニ趣意
 ハ海陸ノ聯絡ヲ完成シテ世界ノ交通ヲ發
 達シ又兩國ノ貿易ヲ擴張セリメントスル
 ニアリト思ハル左アレバ汽船ノコトハ暫
 ク措テ云ハス陸上ノ經營ニ於テハ一週ニ
 回ノ急行列車(是レハイルクス)ニ於テ接
 續スノ外ニ十月カ邊クモ十一月ヨリ露都
 ヨリ直通ノ最大急行列車ヲ發スル計畫ナ
 リ夫レ故貴邦ニ於テモ是等急行列車ニ接
 續シテ日本ノ各要地ニ到ルノ利便ヲ全フ
 スルカ為メ急行又ハ直通列車ノ設備アラ
 ニコトヲ希望ス鐵道ノ問題サハ調ハハ汽
 船ノ件ハ別ニ論スルヲ須井ス直チニ協同
 提携ノ実行ヲ見ルヲ得ハレ殊ニ此鐵道ト
 連絡ヲ完フセンカ為ニハ本鐵道ハ東亞汽

本石井製

船ニ對シ格別ナル關係ヲ有スルニ付諸般
協同一致ヲ得ヘシ故ニ此際貴國汽船モ東
亞汽船ト同様銕道トノ聯絡ヲ計ルニ付テ
ハ當方モ喜シテ贊同スル所ナリトテテ、リ
ウロニ氏ヨリ提示シアリシ當方提出ノ覺
書ヲ一讀セリ

甲日ク右提示中ノ調査書ハ貴社副理事ノ
請求ニ應ジテ提出シタル現行率ナリ尤
モ日本ノ銕道ハ短距離線ニ付キ比較的
運賃高キモ貴邦銕道ト接續スルニ於テ
ハ我當局モ可成丈ケ低減ノ方針ヲ取ラ
ル、コトナラント信セラレ、ナリ就テ

ハ貴社低減ノ標準ハ凡ソ幾許ナルカ美
知スルヲ得バ幸ナリ

スタルウ井ン氏曰ク當方ニ於テハ銕道
ニ對スル準備着々進ミ居ルコトナルカ
此度御回附ノ諸表ヲ見ルニ貴邦ニ於テ
ル銕道ハ接續不便ニシテ運賃モ亦頗ル
高シ當方ニテハ銕道ノ貨物運賃ハ
一露里四分ノ一哥迄引下ルコトヲ得ル
コトニナリ居レリ

烏獲利銕道ト合併後貨物運賃ハ何程ニ
取極メスルヤトノ貴問ニ對シテハ商品
力双互市場ニ引合フ程度迄海陸ノ運賃

※石井製

ヲ引下ル考ナリ云々
 スタルウイン氏曰ク敦賀ハ冬期風波ノ
 為メ荷客ノ陸揚ヲナスコト能ハザルコ
 トナキカ
 甲曰ク敦賀ハ冬期風波アルヲ免レス去リ
 ナガラ為ニ長時間ニ渉ルコトアラズ
 テリウロシ氏曰ク風波ノ為メ碇泊ヲ延長
 スレバ急行列車ニ接續スル能ハス免モ
 角敦賀ノ設備ノ完成ヲ圖ルハ急務中ノ
 急務ナリ
 甲曰ク斯ハ我政府ニ於テ必然成算アルベ
 キヲ信ス尚地方ニ於ケル小設備ニ付テ
 ハ予聊カ計畫スル所ナリ近キ将来ニ於
 テ今日ノ如キ不便ナカラシムベキコト
 ヲ期ス
 スタルインケイウ井ツチ工氏曰ク段々ノ
 御話ニテ御趣意能ク了解セリ固ヨリ不
 同意ヲ申上クベキ筋ニアラズ就テハ此
 覺書ニ依リテ早速本社ニ稟議シ其美認
 ヲ經テ而シテ最モ愉快ナル御回報ヲ為
 シ得ラルベキヲ期ス
 又鑛道運賃ノ引下ゲニ関シ近日関係者
 ノ相談會ヲ開ク答ナリ此運賃ノ引下ケ
 ハ貴邦産物ノ輸入ニ至大ノ利便ヲ與フヘ

空石井製

キハ論ナク殊ニ又前途有望ナル貴邦特
産物タル製茶ノ販路ヲ開クニ於テ充分
ノ効力アルヘシ從來貴邦製茶販路ノ不
充分ナリシモノ品質如何ノ如何ニモ
因ルベケレドモ運賃ノ不廉ナル其價格
ヲ低廉ニスル能ハサリシモノ主タル原
因ナルベシ故ニ今後定期船ト鐵道ト聯
絡シテ運賃ノ負担ヲ減スルニ於テハ販
路ノ擴張ニ多大ノ望ヲ囑スルヲ得ベキ
ナリ本鐵道ノ運賃低減モ重ニ貴邦物産
ニ關係ヲ有スレバ貴邦ヨリ當局者又ハ在
留人中ヨリ相當ノ人士ヲ選シテ出席セ

ラレンコトヲ望ム

甲曰ク御注意ノ趣兼知セリ製茶ノ販路擴
張ハ需給者共ニ最モ必要トスル所我鐵
道當局者ニモ御意見ヲ傳ヘテ此好譽ヲ
空フセサランコトヲ期スベシ

右ニテ相別ル時正ニ午台四時半

附記

席上河野氏ヨリ大体提携ニ付テハ斯
ク迄進行シタル上ハ債率其他ノ協定
ヲ了シテ実行ノ時機ニ入ルモ將ニ遠
カラサラントス就テハ約款交換ニ至
ラストモ事實上今日ヨリ双方提携シ

空石井製

タルモノト見テ改正ノ協商成立スル
迄ハ現在実行ノ荷客運賃ハ假ニ妥當
ヲ得タルモノトシテ変更ヲ要スル場
合ハ成ルベク双方協商スルコトニ致
度モ貴意如何ト尋ネタルニ對シテリ
ウロニ氏ハ全ク同意ナル旨答ヘラレ
タリ

保存製

3-2058

0421

本主、不肖、起テ本議ヲ提唱スルニ至リ、夕

遊信大臣閣下 不肖 茲ニ敦浦間航路日露提
携開通ニ関スル交渉ノ顛末ヲ報告スルニ
當リ不肖ノ起テ本議ヲ提唱スルニ至リ夕
ル原因并ニ其結果ノ概要ヲ開陳シ以テ閣
下ノ閱覽ヲ請ヒ供セテ御高教ヲ仰キ候
始メ東亞汽船會社ノ敦浦間直通航路ヲ開
キ續テ全社主務テリウロクン少將ノ航路視
察トシテ本邦ニ來朝スルヤ不肖ハ彼カ其
視察ニ就テノ考按如何ヲ知ラント欲スル
ニ切ナル事ニ托シテ露國公使ヲ往訪シテ
問フ所アリシモ得ズ竟ニ横濱駐紮露國總
領事ニ紹介ヲ得テ之ヲ往訪シ始メテ彼レ
カ考按ノ概要ヲ知ルコトヲ得タリ不肖カ
斯ク本航路ニ就イテ熱中スルモノ積年日
本海航路擴張ニ就テ苦辛セル經歷ヲ諒知
セラル、所ノ閣下ハ亦不肖カ一時ノ好奇
心ニ驅ラレテ然ルニアラザルヲ諒察セラ
ル、所ナラント信ズルモノニ候
東亞汽船會社主任ノ考按如何ト云フニ早
晚貨物搭載ヲ主トスル船舶一艘ヲ增加シ
二艘ノ定期航ヲ以テ一週二回ノ航路ヲ開
カントスルニ在リ一週二回ノ西比利亞鐵
道急行列車ニ接應スルニ一週一回ノ汽船

空井製

ニ止ムルヲ遺憾トスルハ固ヨリ當ニ然ル
 ベキ所今ヤ又旅客ノ便宜ヲ計ルト共ニ尚
 且ツ物資運輸ノ方法ヲ規畫セントスルコ
 ト斯クノ如クナルモノ抑々何ニ由ルカ更
 ニ一方ニ就テ聞ク所ヲ以テスレバ彼レハ
 小麦、麦粉、大豆及大豆粕ノ輸入ニ深ク注目
 スル所アリテ其調査ニ熱中シツ、アリト
 今其事由如何ヲ以テセズ早晚彼レハ二艘
 ノ定期船ヲ開通セントスルノ計畫アルハ
 疑フベキニアラズ是ニ於テ不肖以為ラク
 彼レニシテ一週二回ノ定期直通線ヲ開ク
 ニ至ランカ我現行命令航路ハ取モ直サズ
 彼レ幹線ニ對スル支線ノ要ヲ辨ズルニ終
 ラシノミ然ラバ競争以テ之ニ對抗センカ
 吾レハ敦賀ニ於テ有利ノ地ニ立ツト全ジ
 ク浦港ニ於テハ不利ノ地ニ立タズンバア
 ラズ航路競争ノ有害ニシテ無益ナルハ又
 言ヲ俟タザル所ナリ然ラバ則チ目下ノ急
 ハ彼レ増便ヲ實施セザルニ先テ我亦一
 艘ヲ用ヒ相提携スルノ外ナカルベシト政
 府固ヨリ成算アル可シト雖モ命令航路ト
 シテハ事豫算ニ関スルモノアリ時宜緩急
 其宜シキヲ制センニハ此會見ノ機會ヲ逸
 スベカラザルモノアリ仮令單ニ意見ヲ提

※右并製

出スルトスルモ其輕重自テ同日ノ論ニア
 ラザルベシ是ニ於テカ不肖深ク衷心ニ決
 スル所アリ断乎トシテ告グルニ双互均分
 提携ノ意見ヲ以テシ豫メ東亞汽船會社主
 任ノ意向ヲ問ハシコトヲ以テシタリ
 敦浦間ノ航權ヲ擧ゲテ外人ノ手裡ニ掌握
 セシムルモ帝國ノ面目ヲ傷クルニ足ラズ
 トセバ止ム苟クモ然ラズトセバ不肖ノ行
 動誠ニ僭越ニ屬スト雖モ其目的ニシテ可
 ナリトセバ又顧慮スルノ違ナク次デ貴省
 當局官ニ披瀝スルニ以上ノ事實ヲ以テシ
 タルニ其寛容ナル帝ニ僭越ノ罪ヲ咎メラ
 レザルノミナラズ尚且ツ均分提携ノ卑見
 ニ同意セラル、所アリ不肖ノ僥倖何モノ
 カ之ニ加ヘン茲ニ於テカ會商數回竟ニ進
 ニテ交渉ニ當ルニ至レリ閣下不肖固ヨリ
 其職ニ在ラザレバ其事ヲ計ラザルノ理ヲ
 知ル然レモ積年日本海航權ニ一身ヲ捧ゲ
 テ其發展改良ヲ企圖スル所ノ不肖ニ取リ
 テハ寧口當然ノ天職ナリト自信スル所ニ
 有之閣下亦當ニ諒察セラル、所ナルベキ
 ヲ信シ候
 グレツ工總領事トノ會見ハ實ニ七月十七
 日ニシテ氏カ東亞汽船會社主任ノ回電ニ

※石井製

3-2058

0424

依リ其會見地ノ指定ニ就テ彼レ上海ヨリノ歸途我邦ニ再遊セシムルモ亦可ナリトノ申出アリシモ不肖ハ寧口彼ノ地ニ入ルノ利便ナルヲ思ヒ渡航會見ヲ約シ其餘裕ヲ利用シテ先ヅ日本海北部ノ情勢ヲ視察セント欲シ七月二十八日東京ヲ發シ奥羽北海兩鐵道線ヲ踏查スルニ當リグレツセ氏ヨリ双互ノ問題ニ就テ更ニ凝議センコトヲ要セラレ八月五日ヲ以テ歸京シ全七日総領事ノ來訪ニ接シ本提議ヲ具體的ニ提出シ次テ復タ貴當局官共ニ大家商船會社主任者ト相會シ内示要項數條ヲ兼ケニ十一日大阪ニ至リ大家商船會社ニ於テ尚商議スル所アリ全社代表者河野文一ト共ニ二十五日發船二十七日浦港ニ到着二十九日第一回會見以來ノ事情ハ別書覺書ニ具陳スル所ノ如クニ候

第一回會見覺書ニモ記述シタルカ如ク提議ノ故障ナク同意ヲ得タルト同時ニ亦顧慮ニ堪ヘザリシモノハ我レノ豫想ニ反シテ彼レカ物資ノ大輸送ヲ期スルハ秋獲時期ヨリセント期スルニ在ルカ為メ其出船ヲ急トスルノ意向アルニ對シ我カ船繰ノ準備ニ缺ク処アルコト是ナリ我レハ明治

森石井製

四十年四月以降ヨリトノ内示ヲ受ケ一面
 冬期ノ休航ヲ豫期シタルニ反シテ彼レ碎
 氷船ノ準備ヲ完フシ冬期尚ホ不休繼續ノ
 豫定ヲ以テセリ是レ別冊呈覽スル所ノ第
 二回會見ノ結果ニ對スル第三回會見覺書
 ニ於テ意見提出ノ趣意説明ニ記シタルカ
 如キ態度ニ出テ緩急遲速ノ機制一ニ閣下
 ノ明裁ニ仰グノ餘地ヲ存シタル次第ニ候
 次ニ敦浦兩地ニ於ケル協同代理店ニ就テ
 ハ内示ノ趣旨モ之レアリレヲ以テ其交渉
 ラ為スニ當リテ單ニ日本ニ就テノ提議
 シタリ他日ノ變更固ヨリ期ス可ラザルモ
 先ツ其選擇ノ一任ヲ得タルカ如キモノ聊
 カ内示ノ趣旨ニ應ズルヲ得タルモノト信
 ジ候
 閣下 不肖ノ茲ニ仰御賢慮度企望仕候儀ハ
 定期船ノ着發ニ接應スベキ鐵道時間ノ變
 更ト米原兼換廢止ノ御断行ヲ仰キ度儀ニ
 有之是レ不肖 往復同船致候獨佛丁抹及露
 人等ノ深ク不便ヲ訴フル所ニシテ日本ノ
 外人優遇ハ長崎神戸横濱ヨリ上陸スルモ
 ノニ止マリテ敦賀ヨリスルモノハ除外ナ
 リヤトマテ苦言シテ憚ラサルモノ有之候
 次第ニ候 不肖モ亦敦賀上陸後露國紳士男

必存并製

女老幼十四名ノ保護方ヲ哀求セラレ其衆
 車及接續ノ待合セト車室ノ選擇方等ニ就
 テ備サニ苦辛ヲ嘗メ彼等ノ不便ヲ訴フル
 ノ全然無誓ニ属セサルコトヲ實驗仕候
 鐵道ノ運賃ニ就テ彼レハ我製茶其他輸出
 品ニ向テ十分ノ低減ヲ為スヘキ旨明言シ
 其運賃低下ニ関スル調査會ニモ本邦ヨリ
 當事者ノ出席ヲ企望候事ハ別書覺書ニモ
 記載候通ニ有之製茶ハ彼ノ必需品ニシテ
 我レ供給ニ富ムモノ生絲絹織物ノ如キ彼
 レノ明言スルカ如ク海運ヨリ陸運ニ移レ
 得ルモノトセハ其露國ノ需用ニ長足ノ進
 歩ヲ見ルノミナラズ亦歐州各市ニ輸出ス
 ルニ於テ至大ノ利便ヲ得ルモノト存候果
 レテ然ルヲ得ハ此ニ品ニ就テモ我レハ新
 ニ一大好販路ヲ開クマク其他我各種製産
 品ニ就テモ前途大ニ望ヲ囑スベキモノ有
 之ト確信仕候彼レノ我ニ對スル如此ニシ
 テ我レノ彼レニ對シ敦賀方面ヨリ尾濃及
 勢北地方ニ向テ大豆大豆粕ノ輸入ニ便利
 ヲ與フルニ於テハ此大豆大豆粕ノ必需地
 ニシテ集散地タル同地方ヲ開發スルコト
 尠カラザルマク殊ニ麦粉ノ需用逐年増加
 スルノ今日廉價ナル小麦又ハ麦粉ノ輸入

亞細亞製

ヲ見ルコト我カ經濟上決シテ輕視スベカ
ラザル儀ト存候就テハ鐵道運賃ヲ低下シ
及航路トノ接續ヲ簡易ニシ以テ之レニ利
便ヲ與フルコト亦急要ノ儀ト思惟仕候
敦賀港ノ設備ニ就テハ業已ニ御成按ノ存
セラル、儀ト奉存候ニ付茲ニ省略仕候
尚詳細ノ儀ハ別ニ具陳ノ榮ヲ得ベキ機會
ニ付シ茲ニハ只其概要ニ就テノニ及御報
告候也

明治三十九年九月

下村房次郎

逓信大臣山縣伊三郎殿

附屬書類

一會見覺書 附參考書類

二定期航海ノ速通就テ貿易上ニ利便ヲ與ヘタル例

三東亞汽船會社ト政府トノ間ニ締結シタル契約書

四九月四日臨時開會セル浦港商業會議所議決書

※石井製

石川 字五

外務大臣林子爵閣下 不肖今回西比利亞ト本邦
 トノ水陸聯絡ノ施設ニ關シ對岸浦塩斯德ニ渡
 航スルニ當リ 不肖積年本航路ノ擴張ニ苦心經
 營シタル梗概ヲ披瀝シテ之レヲ閣下ニ具申ス
 ルヲ以テ當然ノ義務トシ又至大ノ光榮トスル
 所ニ御座候
 抑々通商ノ發達ヲ計ラシニハ先ツ交通ノ利便
 ヲ開カザル可ラズ對岸西比利亞一帶ノ地ハ廣
 表際涯ナク然カモ文化未ダ洽及セズ今ヤ長足
 ノ進歩ヲ以テ開發拓殖セラレツ、アリ我邦商
 工業ノ狀態ヨリ見ルモ天然ノ地勢ニ考フルモ
 正ニ全カヲ尽シテ發展セシムベキ對外貿易ノ
 一大市場タリ
 露國ノ經營ニ成レル西比利亞鐵道ハ已ニ歐亞
 間陸路ヲ通ジテ國際的交通ノ一大幹線ヲ組成
 セリ此間ニ處シ進ンデ通商ノ利便ヲ畫策スル
 ハ我經濟政策上試ニ一日ノ急ヲ見ルモノニシ
 テ我ニシテ之レニ聯接スベキ機關ノ設備ヲ怠
 ルアラシカ膏ニ當然収メ得ラルベキ利益ヲ失
 フニ止ラズ延テ世界的交通ニ對シ利便ヲ與フ
 ベキ帝國ノ本分ヲ忘ル、モノタルヲ免レザル
 儀ニ候是レ不肖か明治三十年以來日本海航路
 ノ擴張ヲ主張シ其ノ施設規畫ニ苦心シタル所

石川

以ニ外ナラズ候
 蓋シ日本海ハ我勢力ノ範圍ニ屬スルモノニシ
 テ我隣邦ハ日本海ヲ境界トシテ相對峙セリ日
 本海ノ交通ハ實ニ單純ナル一經濟上ノ問題ニ
 止マルベキモノニ非ラザルハ不俟論儀ニ候故
 ニ不肖明治三十年ノ交米國ガ新タニ我津輕海
 峽ヲ通過シテ浦港及其ノ以南ノ航路ヲ開通シ
 津輕海峽通過米船ノ逐年増加シテ我日本海々
 上權ノ漸次浸蝕セラル、ヲ知リ先ヅ對岸ニ渡
 航シ黑龍江ノ水路ト聯絡セル烏斯利鐵道ヲ視
 察シ之ト聯絡ヲ計リテ世界的通路ニ充ツルガ
 爲日本海ニ於ケル港灣中首都ニ接近セル良港
 ヲ選ニデ定期郵船ヲ開通スルノ急務ナルヲ確
 信シ歸朝以來先ヅ日本海航路ノ擴張ヲ唱道ス
 ルト共ニ山陰北陸兩道ニ於ケル港灣ヲ視察ス
 ルコト前後數回遂ニ敦賀港ヲ以テ我中心地点
 トシテ比較的良港ニシテ且ツ好位地ニ在リト
 斷定致候敦賀ハ首都ニ遠カラズ政要ヨリ来リ
 テ我首都ニ出テ米國ニ渡航スベキ世界的交通
 線路ノ一地点トシテ適當ナルノミナラズ我産
 業地ノ中心ナル京阪地方ト尾濃一帯ノ地トノ
 間ニ存在シ日本ノ主要ナル商工業地ト氣脈相
 通ジ貨物ノ集散又比較的便宜多キハ又不肖ノ
 言ヲ俟タザル處ニ御座候故ニ敦賀ヲ中心地点

存在并報

トシテ浦港ト直接連絡ニ供セテ日本海一般港
 灣ト對岸地トヲモ聯絡スルノ急務ナルヲ主張
 シ東奔西馳數年ヲ通ジ微カヲ尽シテ之カ期成
 ヲ計リ候處幸ニ政府ハ又其ノ見ル所ヲ同フシ
 遂ニ二艘ノ定期船ヲ日本海ノ航路ニ充ルニ至
 リタルハ實ニ明治三十四年ノ交ニ御座候不肖
 復此年ヲ以テ露國ニ入り黑龍江白鹿ノ水路ト
 東西西比利亞鐵道トヲ視察シテ露都ニ入り
 翌三十五年東清鐵道ノ成ルヤ更ニ該線ニ由リ
 テ政露ニ入り政亞間急行列車ノ實行セラルベ
 キヲ見テ之シニ接續センカ為ノニ敦賀浦潮間
 ノ直通航路ヲ擴張センコトヲ企圖シタルモ不
 幸日露ノ和交破シテ暫ク之ヲ中止スルノ非運
 ニ陥レリ而シテ平和克復セラル、ヤ露國ハ直
 チニ西比利亞鐵道ニ一週二回ノ急行列車ヲ露
 都浦港間ニ開始スルニ至リ一面露國東亞汽船
 會社ハ一週一回ノ定期航路ヲ開キ西比利亞鐵
 道急行列車ニ接續シテ浦港敦賀間ノ交通ノ聯
 接ヲ計ルコト、相成候如斯平和ノ戰爭ニ於テ
 忽チ彼レニ一着ヲ輸シタルハ遺憾不少候得共
 既に日露兩國ノ領土ニ各其航路ノ一点ヲ有ス
 ル以上ハ税關倉庫其他水陸ノ聯絡上乗客貨物
 ノ取扱ヲ通ジテ二者互ニ競争スルハ結局互ニ
 傷キテ延テ世界的交通ノ利便ヲ殺グニ至ル

空石井製

ノ如斯ハ大國ノ面目上忍ブ可カザル儀ニ付
先ヅ我當局ノ意見ヲ確カシ此際我國ニ於テモ
一週一回ノ航路ヲ開始シ相提携シテ一週二回
ノ聖都浦港間急行便ニ接續シ以テ交通ノ利便
ヲ全クスルト共ニ併セテ通商ノ發達ヲ期スル
ノ目的ヲ以テ先ヅ露國公使ニ計リ橫濱駐劄露
國總領事グロスエ氏ト未注商議スルコト數回
不肖ノ提議スル所

第一、聖都浦港間一週二回ノ急行列車ニ接
續シテ我帝都ニ聯絡スル交通ヲ全クセン
カ爲日露各々一艘ノ汽船ヲ以テ敦賀浦港
間ノ航路ニ充ツルコト

第二、世界的交通ノ利便ト兩國貿易ノ發展
ヲ計ルノ目的ヲ達センガ爲相互ノ競争ヲ
避ケ其貨率、水陸接續法先ニ乘客貨物ノ
取扱方法等諸般ノ關係事項ヲ通ジテ之レ
カ協同施行ノ手續ヲ一定スルコト

ノ二條ニ就テハ彼、同意ヲ得又我當局者ノ同
意ヲモ得タルヲ以テ不肖近日彼ノ地ニ渡航シ
彼此當事者ト會見シ本條ニ就テ協議ヲ開クハ
キ機運ニ際會スルニ至レル次第ニ候其ノ現實
ニ細目ヲ通ジ之ガ商議ヲナスニ至リテハ之ガ
協定ノ成否固ヨリ不可期儀ニ候得共露國總領
事ニ於テハ滿腹ノ同意ヲ表シ兩國ノ爲ノ和協

※右并數

成立セシコトヲ企望シ隨テ相當ノ助言ヲ與ヘ
ラレ可キ趣ヲ明言セルト彼此當事者ノ其大體
ニ通ジテ賛同ノ意ヲ表セルヲ以テ充分ノ成效
ヲ期待セルモノニ有之候尚又本邦ノ該航路ニ
充ツベキ船舶ハ目下命令航路トシテ從事致居
候大家商船合資會社ハ現在ヨリモ良好ナル船
船ヲ代用スバク申出候ニ付ニ社相提携シテ本
線路ノ航運ニ協カスルニ於テハ世界的幹線ト
シテ一般ノ旅客ニ利便ヲ與ヘ併セテ兩國貿易
ノ發展ニ資益スル所又勲カラザルベク不肖積
年ノ苦心モ聊カ茲ニ光明ヲ認ノ得タル儀ニ有
之乃チ右概要ヲ具申スルト共ニ不肖微衷ノ存

スル所ヲ諒トセラレ一層ノ指導ヲ相仰キ度如

此ニ御座候

明治三十九年八月十三日

下村房次郎

外務大臣子爵林 董 殿

森田製

114
2

曩ニ及具申候日露航路擴張ニ関シ示
來當局者并當該航業者ト商量協議ニ
結果別書之條項ニ據リテ露國東亞汽船
會社ト高議ヲ可遂事ト相成彌々來ル廿五
日ヲ以テ敦賀港出帆渡航可仕候ニ付此段
及御届候也

追而横濱駐劄露國總領事ケレスエ氏ヨリ本
議、和協成立ニ関シ黑龍江沿岸州総督、
在浦港沿海州知事、在浦港東清鐵道
理事并東亞汽船會社當事者、夫々紹
介書ヲ交付相成候此亦併而及具申候
也

明治三十九年八月十六日

下村房次郎

外務大臣子爵林董殿

必存并製

林
董

一 原案及債物ノ運賃ハ大家面船會社カ政府ノ認可ヲ經テ
實施スル所行キテ據ルコト

但向後運賃ノ變更ヲ要スルトキハ雙方ノ協議ヲ經テ定ム
ルコト

一 西伯利亞鐵道及日本官設鐵道ト乘客運賃ノ取扱ハ同
ノ平等ニ取扱フコトトモ各力ヌルコト

一 浦塩場鹽及魚貨ニ共同代價金ノ置キコト

一 前記兩港ニ於テ一ノ官社ノ船舶ニ与ルハ特種ノ他ノ官社
ノ船舶ニ与ルハ同種ノ他ノ官社ニ与ルコト

一 前記兩港間ノ航海ニ兩會社ニ於テ平等ニ遂行スル所ナルコト

ト船舶ノ所ニ限リ海運ニ關シテ各社各一被リ以テ相互ニ
力取海ニ進ムコト

力取海ニ進ムコト

一 前記各項ハ明治四十年四月一日ヨリ實行スル條定ナルコト

但該期日以前ニ於テハ雙方ノ協議ヨリ實行シ得ルモ本項

ハ之ヨリ實行スルコト

一 前記各項ハ大家面船會社ニ於テ日本政府ノ認可ヲ經テ

ル上效力ヲ生スルコト

文書課長

九月廿九日

明治三十九年九月二十日接

明治三十九年九月十九日
同 九月廿九日
日發連

明治三十九年九月二十日發連

通口局長

信

封紙

校

内田長船長
倉本通高長

日新汽船会社
外務省

外務省

日新汽船会社
船主浦潮

船主浦潮
船主浦潮

船主浦潮
船主浦潮

船主浦潮
船主浦潮

船主浦潮
船主浦潮

船主浦潮

K14

0436

3-2058